

茨城県知事 大井川 和彦 様

鹿行広域事務組合管理者 岸田 一夫

土浦協同病院なめがた地域医療センターの救急部門等存続に関する要望書

春寒の候、貴職におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

また、日頃より当組合の運営について御理解、御協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、先般、「土浦協同病院なめがた地域医療センター」の運営状況などの問題により、救急部門や入院機能などについて大幅な規模縮小を検討している旨の報道がなされました。

当組合といたしましては、今般の報道を受け、「地域救命センター」の存続にかかわる問題として、重大な関心と今後の動向につき深く危惧しているところです。

ご承知のとおり、鹿行地域は深刻な医師不足を抱えているため、本来果たすべき二次救急医療体制、三次救急医療体制の低下が著しい状況にあります。そのため、当組合の業務である救急搬送にも、多くの時間を要している現状であります。

現在の高齢化社会の中において「なめがた地域医療センター」は、鹿行地域住民27万人が安心しての暮らすための地域医療において絶大なる役割を担っていただいております。また、鹿行地域で唯一、三次医療機関としての病院であるとともに、災害時の医療においても不可欠な病院であり、鹿行地域住民からは「なめ総・なめセン」と親しみを込めて呼ばれている、身近で重要な医療機関となっております。

このようなことにより、運営状況などの様々な問題があり得ることは承知致しますが、鹿行広域事務組合として「土浦協同病院なめがた地域医療センター」の救急部門等の存続を強く要望いたします。